

セブン&アイHLDGS.

CSRダイジェスト 2013



新しい価値の提供を通して 社会の信頼に応える流通グループを目指します。



代表取締役会長
最高経営責任者 (CEO)
鈴木 敏文



代表取締役社長
最高執行責任者 (COO)
村田 紀敏

新ブランドメッセージを発信

セブン&アイHLDGS.は2012年4月に新ブランドメッセージ「新しい今日がある」を発表しました。社にもあるように私たちが日頃大切にしている「誠実さ」「心遣い」「きめ細かさ」をもって、お客様が「小さな幸せ」に出合えたり「豊かな日々」を過ごすためのお手伝いをするといった気持ちがこのメッセージに込められています。

グループ力で社会課題の解決に貢献

今日日本が直面している少子高齢化、エネルギー・食糧問題、地方の衰退など、多様で複雑な社会課題は、これまで担ってきた政府や自治体だけでは解決が難しく民間の活力が期待されています。

当社では、グループ共通のプライベートブランド「セブンプレミアム」や環境循環型農業「セブンファーム」、また商品をお客様のより近くにお届けする「お届けサービス」や「ネットスーパー」など、事業活動を通じて社会課題の解決に貢献できるよう取り組みをすすめています。

ダイバーシティ(多様性)の推進

高齢化とともに生産年齢人口が減少し、働き手の確保が大きな問題となる中、政府は「女性の活躍」を成長戦略の柱の一つに位置づけています。

当社においても、さらなる成長戦略を図るため「人を中心とした経営」に注力し人材育成を強化しています。特にお客様の約7割が女性であると同時にグループで働く従業員の多くが女性であるグループの事業特性を活かし、女性視点の店づくりや商品開発を行う

など、女性が活躍できる環境づくりや、女性自身の意識改革を促す取り組みを進め、2014年度末までにグループ全体の女性管理職比率を20%以上にすることを目指しています。

お取引先との協働によるCSRの推進

経済のグローバル化に伴い、NPOやNGO、さらには機関投資家から、商品の原材料調達から販売にいたるサプライチェーン全体に対するCSRマネジメントを要請される動きが世界的に大きな潮流になりつつあります。

また、2012年7月に署名した「国連グローバル・コンパクト」の10原則を実践するうえでも、「セブンプレミアム」のお取引先を中心に第三者機関によるCSR監査を実施し、「セブン&アイお取引先行動指針」の本格的な運用を2012年度より開始しており、お取引先との協働によるCSRを推進してまいります。

社会に役立つ事業を成長の源泉に

急速に変化する環境の中で、社会、特にお客様のニーズに応え続けるためにも、あらゆる情報をすばやく収集できるネットの活用が今や不可欠となっております。ネットの情報とリアル店舗とを融合させることが、お客様に「信頼」をいただくことにつながり、そのことが社会課題の解決に貢献できるものと信じております。

セブン&アイHLDGS.は、社是の実践を通して、社会に役立つ事業を成長の源泉とし、これからも社会と企業との共生、成長に努めてまいります。

CSRに関連する方針

私たちは、全てのステークホルダーに「信頼される、誠実な企業でありたい」という社是に基づいて、事業を営んでいます。その実現のためにとるべき行動を「企業行動指針」として明文化しています。



社 是

私たちは、
お客様に信頼される、誠実な企業でありたい。

私たちは、
取引先、株主、地域社会に信頼される、誠実な企業でありたい。

私たちは、
社員に信頼される、誠実な企業でありたい。

企業行動指針

セブン&アイHLDGS.社員の基本姿勢

<http://www.7andi.com/csr/policy/guidelines.html>

1. コンプライアンス(法令遵守)
2. お客様との関係
3. お取引先との関係
4. 株主・投資家との関係
5. 地域社会との関係
6. 雇用・職場環境
7. 環境管理
8. 社会・文化貢献活動
9. 不正・違反行為の報告

分野ごとの専門方針

取り組みごとの各種方針

環境指針、環境規約
<http://www.7andi.com/csr/policy/environment.html>

環境宣言、地球温暖化防止に関する基本方針
http://www.7andi.com/csr/policy/environment_02.html

社会・文化貢献活動基本方針、社会・文化貢献活動行動指針
<http://www.7andi.com/csr/policy/contribute.html>

セブン&アイHLDGS.は5つのCSR重点事項に沿って活動を推進しています。

CSR重点事項

安全・安心な商品とサービスの提供



安全・安心な商品とサービスの提供

地域社会との共生



地域社会との共生

環境負荷の低減



環境負荷の低減

働きがいのある職場づくり



働きがいのある職場づくり

企業統治・CSRマネジメントの強化



企業統治・CSRマネジメントの強化

“味と品質”にこだわった「セブンプレミアム」

セブン&アイHLDGS.は国内メーカーと連携し、原材料調達から製造、物流、販売までをトータルに管理するプライベートブランド「セブンプレミアム」

を2007年5月から発売しています。おいしさや機能性のもとより、安全・安心や環境に配慮した商品群は、現在、冷凍食品や生鮮、惣菜、お菓子、さらには衣料、雑貨など1,700品以上を数えています。

「セブンプレミアム」は、徹底した温度管理と衛生管理によって品質低下を最小限にとどめる努力をしています。商品販売前には、製造工場ごとに味にばらつきがないかなど、規格通りの商品になっているかを確認しています。また、安全性確保のために定期的に検査を実施して、商品のおいしさや安全・安心を保ち続けています。

安全・安心な商品とサービスの提供

商品の企画から販売にいたる全ての段階で、安全性や信頼性を何よりも重視しています。



生産地や生産方法、
流通履歴を重視した
商品を追求しています。



「顔が見える食品。」

イトーヨーカドーでは、食品の生産地や生産方法、流通履歴(トレーサビリティ)を重視し、安全のための生産者の真摯な取り組みをお客様に公開する、プライベートブランド商品「顔が見える食品。」を販売しています。

その主力商品である「顔が見える野菜。果物。」は生産者が農薬管理などについて定められた厳しい基準に従って生産しているかを直接現地で確認しています。



“環境循環型農業”を追求する 「セブンファーム」

イトーヨーカドーでは、2008年より農業事業会社「セブンファーム」を設立。店舗から排出される食品残さから堆肥をつくり、その堆肥を使って作物を栽培。収穫した作物をイトーヨーカドーの店舗で販売する「環境循環型農業」も行っています。

また、農産物のより一層の安全性を確保するため、2009年に「セブンファーム富里」がJGAP※認証を取得しました。今後は全拠点での認証取得を目指していきます。

※ JGAPとは、農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法の1つで、安全性向上や環境保全を図るために、日々の農場管理のなかで実践すべき基準を定めたものです。

「2012年 GAP普及大賞」を受賞

「顔が見える野菜。果物。」と「セブンファーム」では品質管理レベルのさらなる向上のために取り組んでいるJGAPの認証取得が評価され、流通業として初めて日本GAP協会の「2012年GAP普及大賞」を受賞しました。





地域社会 との共生

お買物が困難なお客様を
支援するために、
これまで築き上げてきた店舗網や
物流・情報システムなどを活用し
新たな「お買物支援」サービスを
創出しています。

イトーヨーカドーのネットスーパー

イトーヨーカドーは、店舗で販売している商品をパソコンや携帯電話などからご注文いただき、ご指定の時間帯にお届けする「ネットスーパー」を2001年から実施しています。

このサービスの特長は、お届けする商品を店舗に並んだ新鮮な商品から売場の担当者が吟味して集荷していることと、広告商品や特売品など多くの商品を「店舗と同一価格で購入」いただけることです。また、ご注文から最短4時間でお届けできます。

2013年7月末現在、145店舗、全国24都道府県で実施し、会員数も約150万人にのぼり、働く女性や小さいお子様がいらっしゃる方などお買物に時間が割けないお客様や、ご高齢の方などから高い支持をいただいています。



地域に密着したサービスを通じて、
お客様の利便性向上と
周辺地域の活性化に貢献していきます。

「セブンらくらくお届け便」

「近くて便利」なお店を目指すセブン-イレブンでは、お客様がお店でご購入いただいた商品や、店内のほぼ全ての商品から事前に電話などでご注文いただいた商品をお客様のご自宅などにお届けします。

また、「重い」「かさばる」などの持ち帰りづらい商品を購入後、お客様に代わってお届けしています。

配達には、環境にも配慮した超小型電気自動車「コムス」を使用しています(2013年7月末現在 530台)。

「セブンあんしんお届け便」

セブン-イレブンでは、お客様のお買物や食生活をサポートするために、おにぎりやお弁当、パンや飲料などを中心に生活必需品に絞り込んだ商品を載せて、日常のお買物に不便なエリアや移動手段にお困りの高齢者が多い地域を中心に、移動販売車で巡回しています(2013年7月末現在 35店舗)。

「イトーヨーカドーあんしんお届け便」

イトーヨーカドーは、介護施設や公民館などを中心に巡回する移動販売を長野県坂城町・北海道札幌市・東京都多摩市で実施しており、食料品から日用品、さらには日常生活における必需品や嗜好品まで豊富に取り揃えて販売しています。

セブン-イレブンの環境配慮型店舗

セブン-イレブンは、2008年から店頭看板に、2009年8月からは一部の店舗および改装店の売場照明にLEDを採用し、2011年9月からは標準仕様としました。さらに、屋上に太陽光を採り入れるトップライトや太陽光発電パネルを設置しています。

環境負荷の低減

2013年2月に日本国内の事業会社9社※を対象に、2011年度のCO₂排出量を基準とした2017年度の見込みCO₂排出量から約10%削減する目標を策定しました。

また、店舗の分電盤に「スマートセンサー」を設置。店内設備における電気使用量を「見える化」することで、設備の使用上における問題などを把握・是正し、無駄な電力消費を削減しています。

さらに、設備の清掃や設定温度について定めた「省エネ10カ条」を店舗の従業員に周知し、省エネをうながしています。

加えて、省エネ型の空調システムや循環型換気システムなど、さまざまな設備を集結させた「環境配慮型店舗」を増やしており、その店舗数は2013年5月末時点で561店舗となりました。

店頭看板 LED化



太陽光発電 発電した電気を 店内で使用

トップライト

店内に太陽光を採り入れ、照明の電力を削減



スマートセンサー

分電盤に設置。電気使用量の「見える化」を可能に



売場照明

LEDを使用し消費電力を削減



※ セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカドー、そごう・西武、ヨークベニマル、ヨークマート、シェルガーデン、セブン&アイ・フードシステムズ、赤ちゃん本舗、ロフトの9社。

事業特性に配慮した効果的な環境負荷の低減にハードとソフトの両面で行い組んでいきます。

「セブンの森」

セブン&アイHLDGS.ではセブン-イレブン記念財団※とともに、森林整備を促進させるプロジェクトを2012年6月から長野県坂城町で開始しました。間伐や下草刈り、樹種転換などの森林整備を行うことで、CO₂の吸収の促進と生物多様性の保全、調和した持続可能な森林保全活動を目指しています。

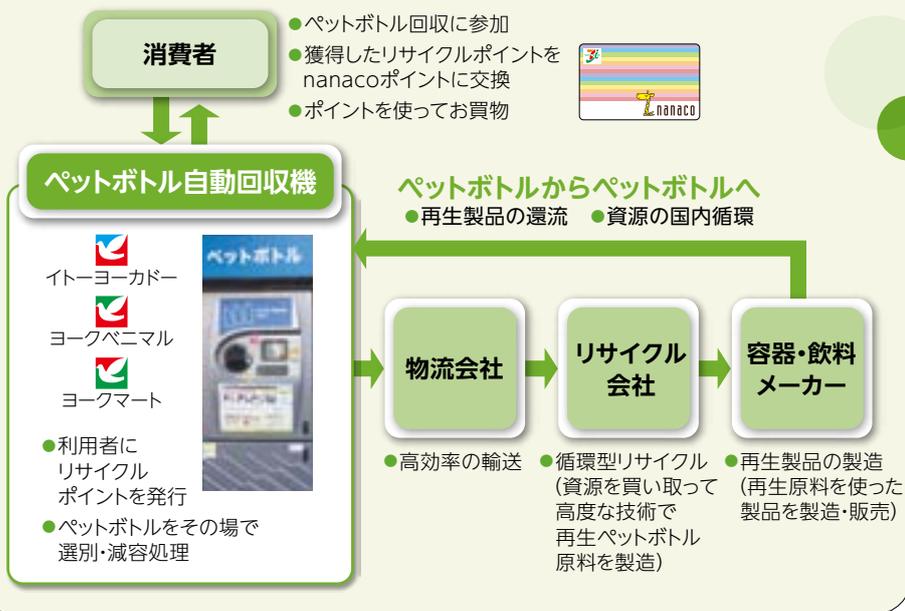
また、森林から得られる木質材はグループ内の店舗資材や事務備品として使用。商品化も行い国産木材の活用も促進していきます。

※ セブン-イレブン記念財団は、加盟店とセブン-イレブン本部が一体となって環境をテーマにした社会貢献活動に取り組むことを目的として、1993年に設立。店頭募金で環境NPOや地球温暖化防止活動、自然環境保護・保全活動などを支援しています。詳しくはWebサイトをご覧ください。

<http://www.7midori.org>



自動回収機を活用したペットボトルのリサイクルシステム



ペットボトルのリサイクル

イトーヨーカドー、ヨークベニマル、ヨークマートは、店頭でペットボトル自動回収機を設置しています(2013年8月末現在220店舗)。この自動回収機は、回収機内でペットボトルが自動的に選別・減容(圧縮または破砕)され、選別機能で異物なども除去できるため、リサイクルメーカーは資源を再生しやすい状態で入手できます。

レジ袋の無料配布中止

イトーヨーカドーでは、全店舗で食品売場のレジ袋無料配布を中止し、1枚2円での販売を開始しました。ヨークベニマルでも、全店の約9割にあたる160店舗(2013年2月末現在)でレジ袋の無料配布を中止しています。また、各社ではマイバッグ持参をお願いするポスターやPOPの掲出、イベントなどを通じてレジ袋の削減を強化しています。





働きがいの ある職場づくり

ダイバーシティ推進活動の一環として
「女性の活躍」を
積極的に進めています。



「女性の活躍」を積極的に推進

セブン&アイHLDGS.は、2012年度に専任組織である「ダイバーシティ推進プロジェクト」を設置し、「多様性を明日への力に」のスローガンのもと、属性やライフステージに関わらず、多様な社員が十分に活躍できる職場環境の確保を積極的に行っています。社員の潜在的な能力を引き出すことが、継続的な企業の競争力強化につながり、企業価値を高めることと考え、さまざまな取り組みを進めています。



社会の変化に対応し、
お客様の期待に応え続けていきます。

生活者の立場に立った 売場づくり

イトーヨーカドーでは、地域の生活者でもあるパートタイマーが、商品を試食し、味やおいしく食べるための提案について意見を交換するなど、品揃えや売場づくりに積極的に取り組むことで、地域のお客様のニーズに応えることができています。

育児とキャリアの両立を目指す 交流イベント

育児中の社員のモチベーション向上とネットワーク構築を目的に、グループ各社の育児中の社員有志が集まる交流イベント「ママ'sコミュニティ」を2012年7月から2013年8月までに計7回開催し、合計約400人が参加しました。昼休みの時間を利用して、育児休業後の復職者支援など、毎回テーマを決めて育児と仕事の両立について話し合っています。

女性を中心とした店舗の運営

そごう・西武では、食品部門で、お子様連れやご高齢のお客様に声をかけてお買物を手伝うショッピングサポートを実施し、女性ならではのきめ細かさが、お客様から好評をいただいています。お客様との会話が増え、ダイレクトにニーズを把握できたことから、生活者としての女性視点を活かして、品揃えなどさまざまなヒントを得ています。

店舗がある国と地域

スウェーデン
ノルウェー
デンマーク

China

中国

韓国

日本

台湾

フィリピン

タイ

マレーシア

シンガポール

インドネシア

オーストラリア

海外での 取り組み

セブン&アイHLDGS.は
世界16の国と地域で
グローバルに
事業を展開しています。

世界での店舗ネットワーク

約**51,600**店*

※ 店舗数(日本は2013年2月末現在、その他の国・地域は2012年12月末現在)には、以下を含みます。

- 当社の子会社がそれぞれの国・地域で運営している店舗数
- 7-Eleven, Inc.のエリアライセンスが各国で運営している店舗数
- そごう・西武との契約のもと商標を使用し、運営している店舗数

華糖ヨーカ堂 成都イトーヨーカ堂

2012年度、華糖ヨーカ堂は、教育支援や被災地支援などを中心に533,628元の寄付を行いました。成都イトーヨーカ堂は、教育支援を中心に401,165元の寄付を行いました。



セブン-イレブン北京

店舗に募金箱を設置してお客様から寄付をつのり、政府公認の環境保護団体「北京緑化基金会」に寄付しています。2012年度は164,884元が集まりました。



North America

カナダ

米国

ハワイ

メキシコ

Hawaii

SEVEN-ELEVEN HAWAII, INC.

良き企業市民として、子ども・教育・福祉・健康に関する活動や団体を支援しています。2012年度は、ハワイ市民のために殉職した警察官などをたたえるモニュメントの設計・製造および維持を目的とするNPO「ハワイ・ロウ・エンフォースメント記念財団」を支援。同NPOが市民から寄付をつのるために開催したイベント「ライド・フォー・ザ・フォールン」のスポンサーを務めました。



7-Eleven, Inc.

青少年の育成、軍人への支援、地域の安全をテーマにした社会貢献活動に取り組んでいます。

犯罪が増える夏に、子どもたちに良い行いをうながし、そのごほうびとなるよう、店舗がある地域の警察署に炭酸飲料「スラッピー」の無料クーポン券を配布しています。1995年から毎年約100万枚を提供しており、2012年は米国の600都市で子どもたちに配布されました。累計配布数は約1,100万枚にのぼり、「警察に対する印象の改善や地域の安全に役立っている」と警察官から評価を得ています。



T O P I C S

海外の7-Eleven運営企業の取り組み

※ 各国の7-Elevenはエリアライセンスを持つ企業が運営しています。

in Korea

韓国で運営しているKorea Seven Co., Ltd. [Lotte Group]は、2012年1月から、大学生への学費支援として、一人につき最大1,000万ウォンを無利子融資したり、奨学金制度や雇用制度を提供しています。

in Thailand

タイで運営しているCP ALL Public Company Ltd.では、2011年にタイで起きた大洪水をうけ、2012年度には従業員自身により社会貢献活動を主導するボランティアクラブが誕生しました。

東日本大震災からの復興支援

小売業の強みを活かし、被災地のお取引先と連携し、さまざまな復興支援に積極的に取り組んでいます。

「東北かけはしプロジェクト」

セブン&アイHLDGS.は、岩手県・福島県・宮城県の各行政と、東日本大震災で被災した東北企業や大手食品メーカーと連携し、復興支援企画「東北かけはしプロジェクト」として東北の商品を集めた販売会を2011年11月から実施しています。



©東北かけはしプロジェクト



「ペップキッズこおりやま」の開設

ヨークベニマルは、地元である福島県郡山市に土地と施設・設備を無償貸与し、子どもが放射線を気にせず遊べる屋内遊び場「ペップキッズこおりやま」の開設(2011年12月)に協力しました。また、お取引先とも連携して、さまざまなイベントを実施しています。

経済的な自立を支援

そごう・西武は、故郷を離れ仮設住宅での生活を余儀なくされている福島県飯舘村の女性たちを支援するために、全国の皆さまから善意で寄贈された着物をリメイクした衣類や服飾小物の販売会を開催しました。

リメイクする際の商品デザインを法人外商部のデザイナーがアドバイスしているほか、販売会場の提供や陳列什器の提供、事前告知や当日の販売応援などを無償協力しています。



CSRのさらなる深化に向けて

～CSRからCSV(Creating Shared Value: 共有価値の創造)へ～



取締役執行役員
CSR統括部 シニアオフィサー
伊藤 順朗

2011年度に整備したセブン&アイHLDGS. CSR推進体制のもと、2012年度はCSR3部会とも、関連法令への対応やグループ全体および個社ごとの課題の抽出・分析、さらに今後のグループの方向性の確認に傾注した年でした。

具体的には、企業行動部会においては、改正労働関連法や障がい者雇用促進法への対応、女性の活躍を推進するための組織づくり、グループ従業員意識調査を実施しました。

環境部会においては、CO₂排出量の把握を主要事業会社9社にまで拡大し、グループCO₂排出量の削減に向けた中期目標を策定しました。

消費者・公正取引部会においては、上質な商品を目指すための商品知識とお取引先との公正な取引に関わるグループ仕入担当者向け研修会を開催しました。しかしながら、2013年6月にグループ会社ヨーク

ベニマルが公正取引委員会から下請法違反勧告を受けました。今後は再発防止に向けた研修を強化し、法令遵守の徹底に努めてまいります。

2013年度にCSRの取り組みをさらに深化させるためには、主に3つの課題があると認識しています。

一つは、外部有識者とのステークホルダーダイアログ(対話)を通じて、これまでのCSRの取り組みを検証すること、二つめには、グループのCSRの方向性(ミッション)をより明確にし、その方向性の実行にあたりグループ各社との連携を一層強化すると同時に、さまざまなKPI(Key Performance Indicator: 重要業績評価指標)を設定するなどして、多面的に取り組みを評価することです。

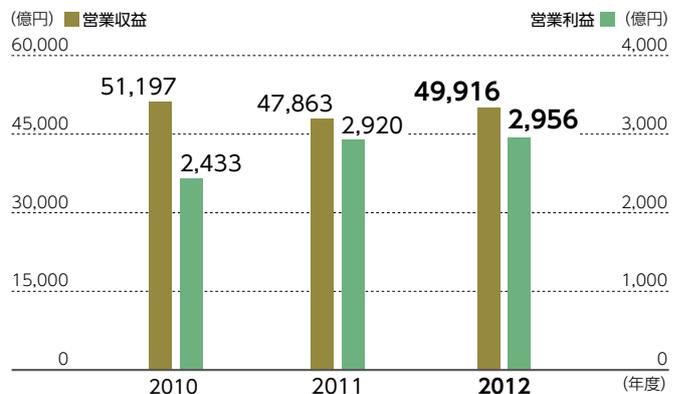
そして最後に、現状のCSRの取り組みそのものを、法令遵守や自社の社会・環境への負の影響の削減に留まらず、社会的課題の解決の事業化(CSV: 共有価値の創造)へシフトさせることです。

セブン&アイHLDGS. が社会から必要とされる存在であり続けるため、本業そのものにCSRの考え方を組み込み、社会と企業の持続的な発展“戦略的CSR”を一層推進することにより、さまざまな社会的課題の解決に向けて積極的に取り組んでまいります。

会社概要 (2013年2月末現在)

社名	株式会社セブン&アイ・ホールディングス
本部所在地	〒102-8452 東京都千代田区二番町8番地8
設立	2005年9月1日
資本金	500億円
連結従業員	140,716人 (月間163時間換算の臨時従業員を含む)
事業内容	コンビニエンスストア・総合スーパー・百貨店・食品スーパー・フードサービス・金融サービス・IT/サービスなど、各事業を中心とした企業グループの企画・管理・運営(純粋持株会社)
Webサイト	http://www.7andi.com/

営業収益および営業利益



詳細なCSRの取り組みについては、Webサイトをご覧ください。 <http://www.7andi.com/csr/index.html>



株式会社 **セブン&アイ** HLDGS.

CSR統括部

〒102-8452 東京都千代田区二番町8番地8

TEL. 03-6238-2448

<http://www.7andi.com/>

UD FONT

ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、株式会社モリサワが開発したより多くの人に見やすく読み間違えにくいデザインの文字を採用しています。